

第3回
京都大学原子炉実験所
原子力安全基盤科学研究シンポジウム

東京電力

福島第一原子力発電所事故後の
地震・津波と原子力リスク

京都大学 原子炉実験所
原子力安全基盤科学研究プロジェクト

日時：平成26年 10月30日(木)

会場：京都大学芝蘭会館
(京都大学医学部構内)

森山 裕文

京都大学、原子炉実験所
所長



平成23年東北地方太平洋沖地震 及び
福島第一原子力発電所の事故によって被災
された皆様方に謹んでお見舞い申し上げま
すとともに被災地の1日も早い復興をお祈り
申し上げます。

京都大学研究炉の特徴を活かした、原子力
利用を支える安全基盤科学研究と教育を包
括的に進めるための研究教育拠点を形成し、
原子炉利用に対する社会的な理解の獲得に
資する事業「原子力安全基盤科学研究プロ
ジェクト」を、平成24年から4年間に亘り実施
しております

このプロジェクトの一環として、毎年1回テ
ーマを決め、国際シンポジウムを開催するこ
としております。本年は、平成24年の事故後
の放射線影響評価、平成25年の原子力
バックエンドと核変換を主題とした開催に続
いて、第3回として、「福島原子力発電所事
故後の地震・津波と原子力リスク」をテーマと
したシンポジウムを、2014年10月30日に開
催いたします。

釜江 克宏

京都大学、原子炉実験所
原子力防災システム研究分野
教授



東京電力・福島第一原子力発電所における
事故以降、原子力施設の大規模自然災害に
対する安全評価がより厳格になりました。

特に重要施設は活断層等の露頭がない地盤
に設置すること、津波に対してはドライサイトが
要求されるなど、絶対安全を目指した決定論
的な設計体系の基で安全規制が行われていま
す。

地震・津波などの自然外力には大きな不確定
性が存在するため、設計基準を超える地震動
や津波に対応するリスク概念が不可欠である
とともに、地震リスクに基づく国民による社会的
意思決定が重要と考えます。

このシンポジウムでは地震・津波の安全評価
における不確実性、地震・津波PRAや断層変
位ハザード評価、原子力システムとしてのリス
ク、リスクコミュニケーションなど、一貫した原子
力リスク問題を議論したいと考えています。

関連する研究者や、一般市民も含めた多数の
ご参加をお待ちしています。

Information

プログラムと論文について

プログラムは口頭発表とポスターセッションです。基調講演と口頭発表は招待者のみとなります。下記のテーマでポスターを募集いたします。応募いただいたアブストラクトより厳選して、2015年の秋にSpeinger出版から発行される論文集に推薦させていただきます。

List of Topics

1. 外的事象を含むPRA
2. 原子力施設や設備のフラジリティ
3. 活断層や震源
4. 地震動
5. リスクと社会

使用言語

英語・日本語（同時通訳あり）

Organizations

主催

京都大学 原子炉実験所

組織委員会

委員長：森山裕丈

委員：蛭沢勝三（電力中央研究所）

Members: Representatives of relevant domestic organizations

国際アドバイザー委員会

委員長：山名 元（京大炉）

Members: Representatives of some international organizations

プログラム委員

委員長：釜江 克宏（京大炉）

Members: Domestic specialists of each fields

事務局

上林宏敏（京大炉）

仲谷 麻希（京大炉）

お問合せ先

京都大学 原子炉実験所

原子力安全基盤科学研究プロジェクト

〒590-0494 大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目

Tel: 072-451-2432, Fax: 072-451-2639

E-mail: anzenkiban@rri.kyoto-u.ac.jp



Kiyomizu-dera



Kyoto University

Key Dates

6月 1日：アブストラクト、参加登録開始

8月 29日：アブストラクト申込み終了

10月 23日：事前参加申込み 終了

12月 下旬：論文投稿

費用

参加、論文投稿 無料

懇親会 希望者のみ 6000円